

研究テーマ：積極的にコミュニケーション活動をおこなうための工夫

所属 芸西村立芸西中学校

氏名 鈴木 加代子

R G J H 6

1. 研究の背景

全校生徒 118 名で、そのうち3年生は2クラス 49 名である。地域的には、教育に大変関心があり熱心である。毎年、村から中学生 10 名がカナダのフレンズ校と国際交流を行っている。そのため英語に高い関心を持っている生徒も何人かいる。またその一方で、苦手意識からやる気を失っている生徒もあり、学力差が大きい。そのためクラスを2つにわけて習熟度別学習をおこなっている。

2. リサーチクエスト

音読の練習をどのようにすれば、コミュニケーションにつなげ、話す力につなげていけるか。

3. 予備調査

(1) CRT 分析（領域別分析と問題点） 6月

- * 聞く活動⇒全国レベルに達している。定期テストでも得点が高い。
- * 書く活動⇒全国レベルに達している。
- * 話す活動⇒ほぼ全国レベルに達しているが他の活動より得点が高い。
- * 読む活動⇒ほぼ全国レベルに達しているが他の活動より得点が高い。

(2) 生徒の意識調査

英語の学習の中で最も学習したいことは、何ですか。

聞くこと	書くこと	話すこと	読むこと
9	7	2 3	5

- ① 家庭学習として音読をする生徒がほとんどいない。
- ② 音読のとき声が小さい。
- ③ 英語の授業に関するアンケートでは、話せるようになりたい生徒が一番多い。

4. 仮説の設定

- (1) 音読がしっかりとできれば話す力もついてくる。
- (2) さらに表現読みがスムーズにできればALTの先生や友達とのコミュニケーションもスムーズにおこなえる。

5. 計画の実践

- (1) 毎時間授業の活動の中に reading の時間を取り、週1回 reading テストを行う。

- (2) **Daily Conversation** のプリントを生徒に与えペアで練習させる。そのとき“会話をつなげる表現”を使わせる。
- (3) 投げ入れ教材をできる限り取り入れ、表現力をつける機会を与える。
(愛の食卓編、 電話で約束、 サンタへのお願い、 etc.)

6. 実践の結果

- (1) **reading** テストを週 1 回行うことで、毎時間の **reading** 活動 (ペアで **repeat, shadow read**,) に意欲を持って取り組んでいた。
- (2) 定期テストの中に **Daily Conversation** で使った表現が出ることと、**ALT** とのインタビューテストがあるので、授業のウォーミングアップとしてほとんど毎時間 3 分間実施した。
- (4) 月に 1 回教科書から離れ、ペアでスキットをやらせた。基本となるスキット (**ALT** と **JTE** で相談) に、自分たちが作った表現や背景を作らせて実施した。

7. 結果の検証

3 年になると人前で音読することや表現する事が恥ずかしくなり、あまり声が出なかった音読であったが、毎週テストをすることで意欲的に取り組み始めたように思う。特に基礎クラスではそのことを大きな目標に取り組み、毎日 10 回を目標に実施した。**Reading** テストでは評価の観点を示し、評価して行くことで次回への意欲につながり、生徒自身また教師自身の **feed back** にもつながる材料となる。そのためには、次にステップアップできる観点をもっと示すべきであったと思う。教師が考えていた以上に真剣に取り組み、家でも **reading** してくる生徒が出てきたのはうれしいことである。

1 学期に行ったインタビューテストの中で **surprised question(sudden question)** を行い、生徒からも **ALT** の先生に関連したことを質問するなど、積極的に話を継続できたことをふまえ、2 学期は、1 分間の **free talking** テストを実施した。図書室で一人一人 **ALT** と行い、**JTE** が観察して評価した。あいさつだけの生徒は一人もおらず、全員元気よく最初の一声は自らできた。もっと話したかったと言った生徒も数人いて頼もしく感じた。

教え合いや **speaking** テストのペアは話し合いで決めているので、比較的スムーズにできた。特にスキットを考えると、相談の出来るペアは大変有効であった。食卓での会話は、恋人同士や、夫婦、友達など **situation** によって会話が工夫されており楽しめてやれた。反省として、評価は **ALT** と **JTE** で行ったので、3 学期は生徒同士で行うことも取り入れれば、もっと意欲が出るのではないかと思う。

8. 成果と今後の課題

話す活動と書く活動が必ずしも結びついているわけではなく、口で言えても書けない実態があり、書ける活動につなげていくことが、特に 3 年生では大切である。今回の取組で、まず教室から声があふれ出したことは大きな成果であると思う。

今生徒が求めているものは何か、何ができないのかを把握し、それに向けての授業や手だてを考えることの大切さは当然のことではあるが、改めて今回の取組でその大切さを再認識でき、前に小さな光が見えてきたように思う。教師が目標をもって取り組むことが、生徒の意欲にもつながっている。

3 学期は、音読とともに書く活動もリサーチしていきたい。